2014年3月期 第2四半期
決算説明会

2013年11月22日

あすか製薬株式会社

2014年3月期　第2四半期　総括

あすか製薬株式会社
代表取締役社長　山口 隆

2014年3月期 第2四半期 連結決算

単位：百万円	2013年3月期 第2四半期累計	2014年3月期 第2四半期累計	増減率
売上高	20,138	20,026	△0.6%
営業利益	637	710	11.4%
経常利益	772	841	8.9%
特別損益	359	―	―
四半期純利益	740	522	△29.5%

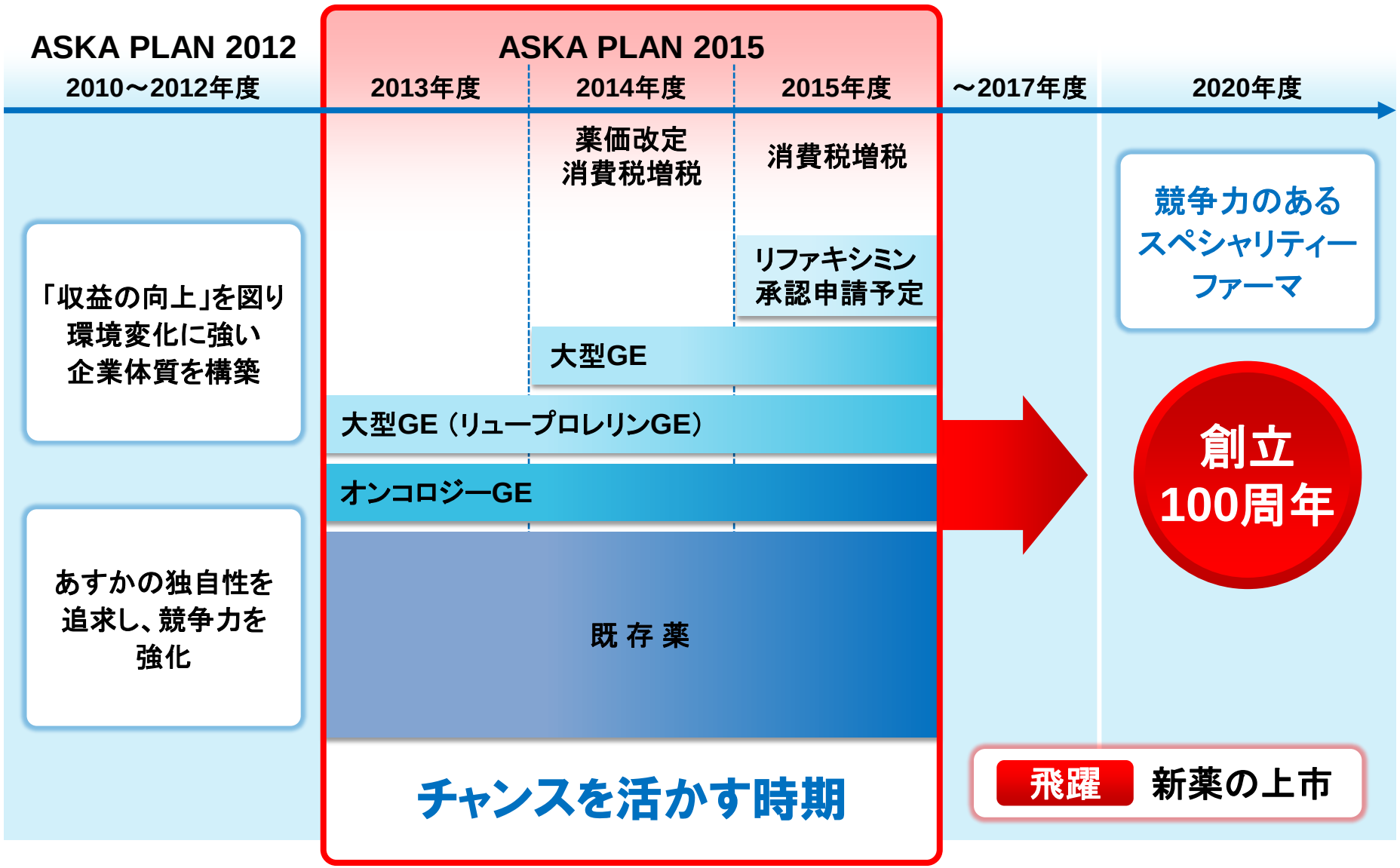
総括

- 売上面では、長期収載品の落ち込みをGE品で補完したが、前年同期比0.6%減少となりました。
- 利益面では、販売費及び一般管理費の抑制に努めた結果と研究開発費の支払い時期のずれ込み等により、営業利益、経常利益とも増加となりました。
- 2014年3月期見通し（百万円）
  - 売上高：41,900　営業利益：700　経常利益：1,050　純利益：600

ASKA PLAN 2015
2013年度上期の位置づけと進捗状況
（中期経営計画2013～2015年度）

医療関連ビジネスを展開する強い企業を目指すため
あすかグループ全体のモチベーションを上げていく

ASKA PLAN 2015の位置づけ



ASKA PLAN 2015　基本方針

収益改善

① 新経営体制

経営と執行の分離

- 意思決定の迅速化
- 執行責任の明確化による部門計画の達成

② 選択と集中

投資効率の改善

- 重点3領域への集中による新薬の製造販売承認取得加速
- グループ全体でのジェネリック事業の再構築と確立

③ 生産性向上

コストの最適化

- いわき工場の内製化促進による稼働率向上
- 適正予算の実行と再配分

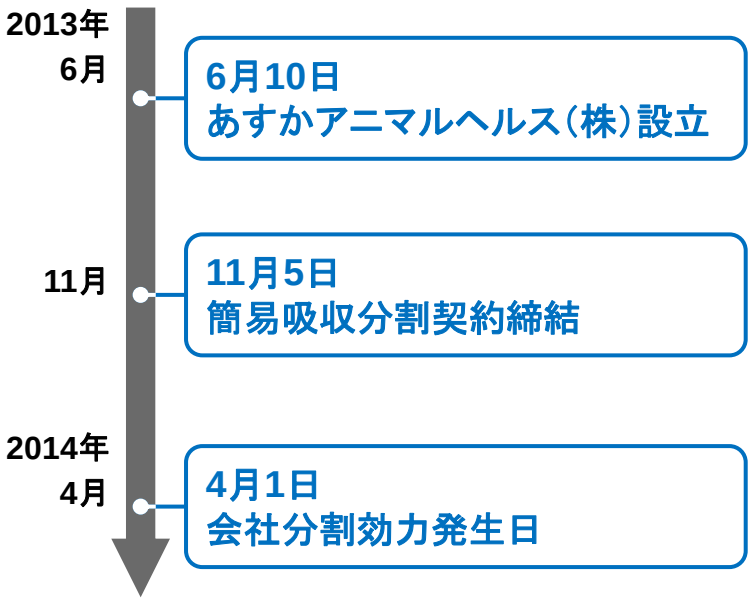
意思決定の迅速化

アニマルヘルスの分社化

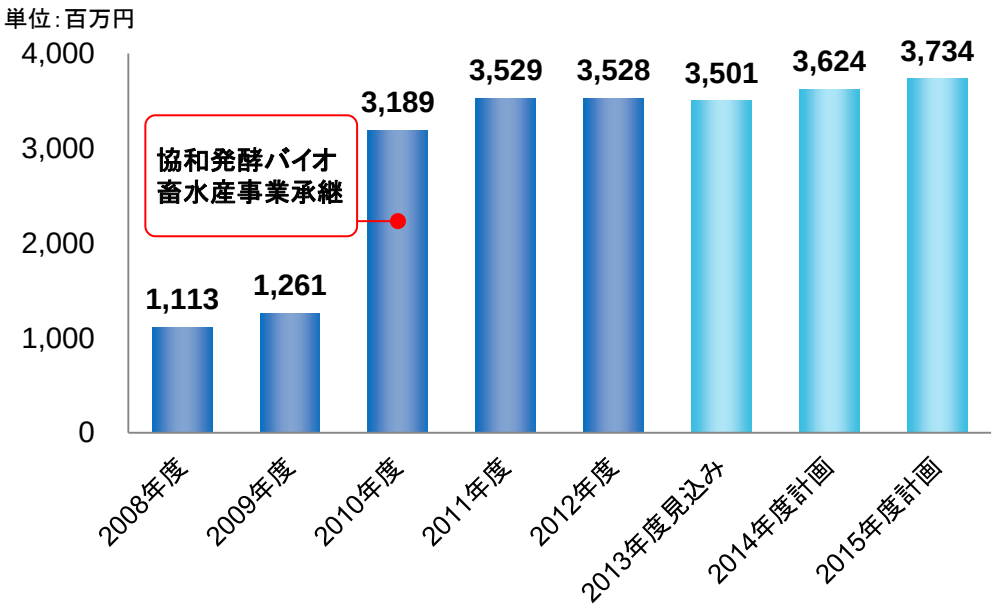
設立の目的

- 畜水産業界やコンパニオンアニマル用製品の需要変化、急速な市場環境の変動に即応し、経営の自由度を高め、経営責任を明確にし、意思決定の迅速化を目的としてアニマルヘルス事業を分社化し、子会社とします。

分社化へ向けた流れ



アニマルヘルス事業売上高推移



執行責任の明確化による部門計画の達成

執行体制の強化

- 執行役員への権限委譲

  ⇒ 部門執行責任者会議の新設による課題共有と進捗管理強化

組織改正

- 部（部長）の再編による組織の活性化
- あすかジェネリック事業本部を新設（2013年10月1日付）

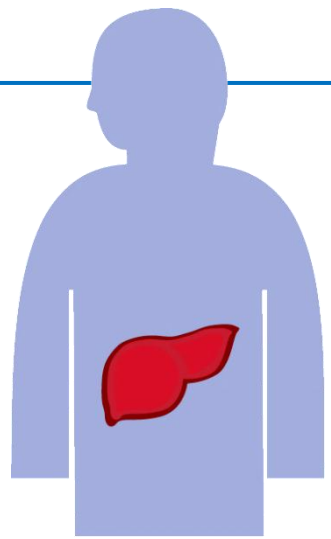
重点3領域への集中による新薬の製造販売承認取得加速

「リファキシミン」希少疾病用医薬品に指定

効能・効果に予定する「肝性脳症」に対する希少疾病用医薬品（オーファンドラッグ）の指定を厚生労働省より受けました（2013年5月13日付）

肝性脳症について

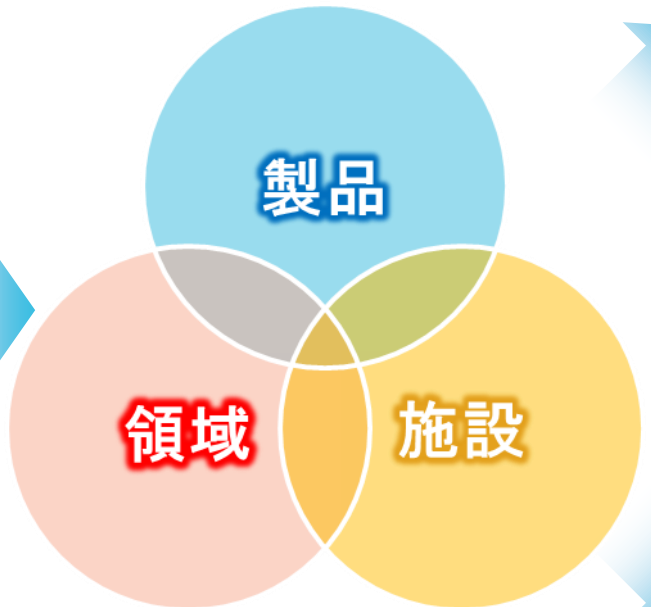
- 肝機能不全に伴い、消化管内バクテリアによって発生する毒素（主にアンモニア）を肝臓で除去できなくなることで発症
- 症状は精神神経症状（認知障害・運動障害等）や昏睡
- 国内の患者数 21,000～42,000人（推定）



グループ全体でのジェネリック事業の再構築と確立

「あすかジェネリック事業本部」新設（2013年10月1日付）

医薬営業本部
MR:約300名
全ての医療機関
保険薬局
全品目



医薬営業本部
MR:230名
病院・診療所・保険薬局
（原則）
産婦人科 ・ 泌尿器科
内科（一部）

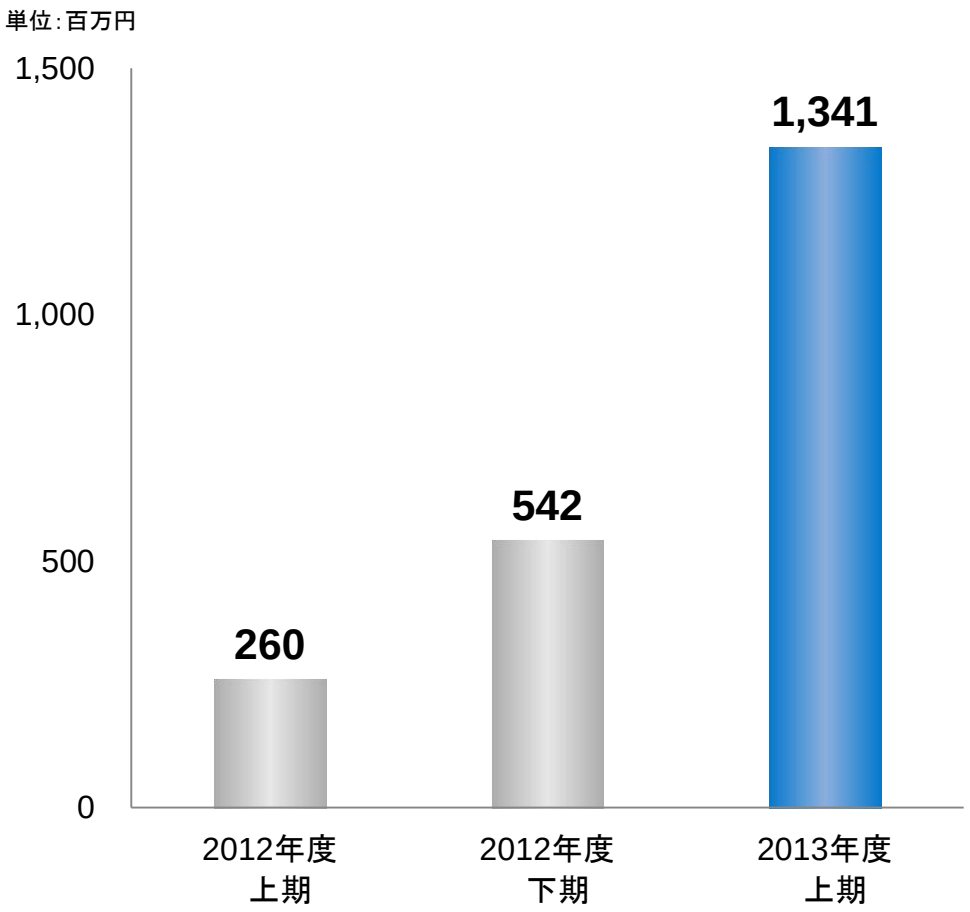
協力体制

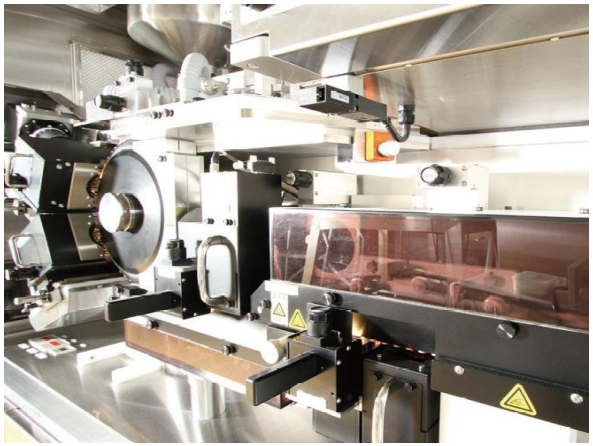
あすかジェネリック
事業本部
MR:70名
診療所・保険薬局
（原則）内科系ジェネリック

いわき工場の内製化促進による稼働率向上

内製化へ向けた設備投資

設備投資





内製化

- プロスタールの内製再開
  （2013年8月～出荷開始）
- 他3製剤の内製化へ向け
  予定通りの進捗

新規設備投資

- ブリスター包装機増設
- GE用 選別機・打錠機・包装ライン
- クロマトグラフ・空調設備ほか

2013年度下期の取り組み

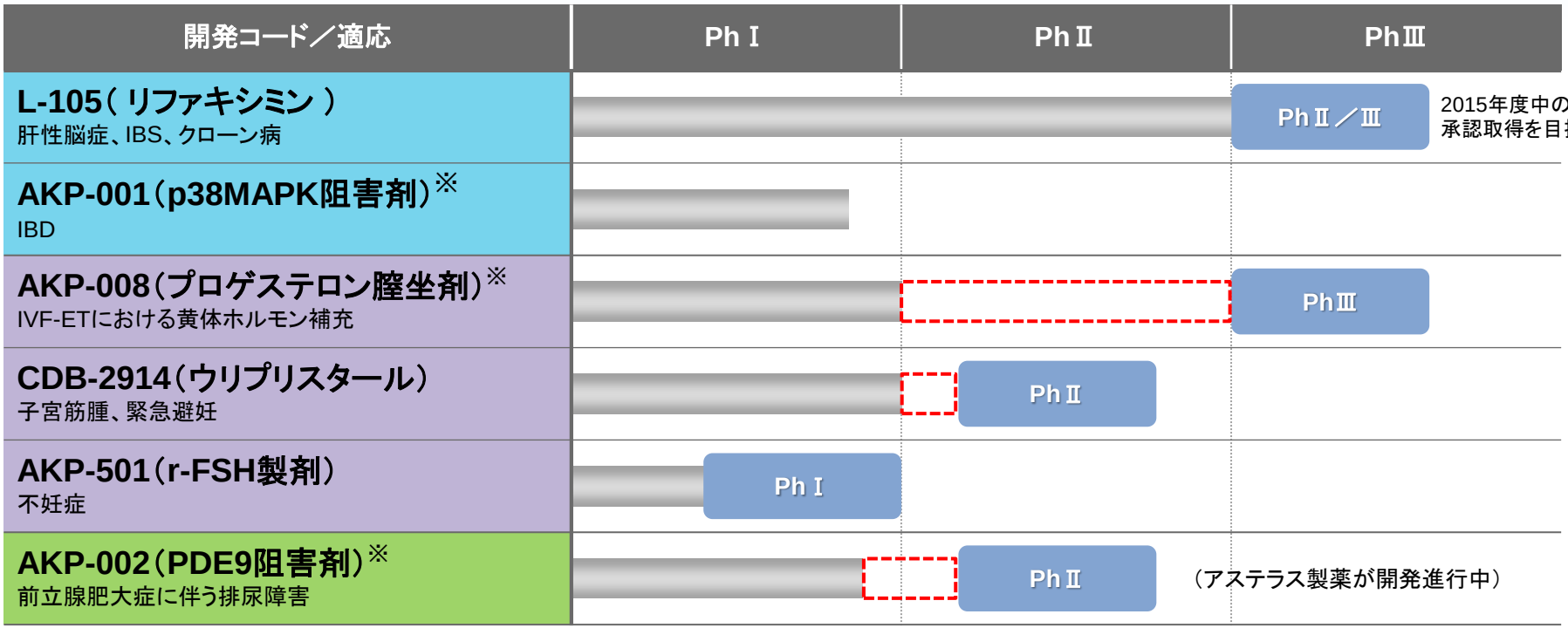
下期の取り組み

下期も、中期経営計画「ASKA PLAN 2015」の方針に基づき、売上拡大と利益確保に努め、本年度から始まった新しい中期経営計画の完遂の足場を固める

1. リファキシミンの研究開発推進
2. ジェネリック医薬品事業の売上伸張
3. 内科・産婦人科・泌尿器科への更なる入力強化
4. 設備投資

研究開発の状況（2013年11月現在）

重点3領域に研究開発資源を集中させ、重要テーマ（L-105、CDB-2914、AKP-008、AKP-501）については、臨床開発体制を強化して取組む。特にL-105については引き続き最優先で進める。



L-105（リファキシミン）

リファキシミンとは

本剤は、Alfa Wassermann S.p.A.（本社：イタリア ボローニャ）が創製したリファマイシン系の難吸収性経口抗菌薬です。

あすか製薬は同社より2010年4月に日本におけるサブライセンス権付独占的開発権、販売権及び製造権を取得し、現在国内において開発を行っております。

市場性

既に欧州・米国等、世界40か国以上で肝性脳症、腸内細菌感染症（旅行者下痢症）、憩室炎および結腸・直腸手術時の感染予防等の適応で販売されております。

また、本剤は血中への移行が極めて少なく安全性の高い薬物です。

適応症（予定）：肝性脳症・IBS（過敏性腸症候群）・IBD（炎症性腸疾患）

国内市場（薬価ベース）

肝性脳症	約140億円
IBS	約90億円
IBD	約430億円

海外開発状況

肝性脳症	米国、欧州承認済
腸内細菌感染症（旅行者下痢症）	米国、欧州承認済
結腸・直腸手術時の感染予防	欧州承認済
憩室炎	欧州承認済
過敏性腸症候群（IBS）	米国第Ⅲ相追加試験中
クローン病	欧州第Ⅲ相臨床試験中
細菌性膣炎	欧州第Ⅱ相臨床試験中

あすか製薬グループとしての取り組み



医薬営業本部
MR:230名

協力体制

あすかジェネリック事業本部
MR:70名

あすか製薬

あすかActavis製薬
営業戦略部
信頼性保証本部
経営管理室

Actavis社

- 世界トップクラスのGEラインナップ
- 泌尿器・産婦人科の新薬
- バイオシミラー

あすか製薬　情報提供体制について（2013年10月1日時点）

医薬営業本部



病院

診療所

保険薬局



泌尿器科領域



産婦人科領域



内科　一部

あすか
ジェネリック
事業本部



診療所

保険薬局



内科　GE

2013年度
目標

売上高　419億円

営業利益　7億円

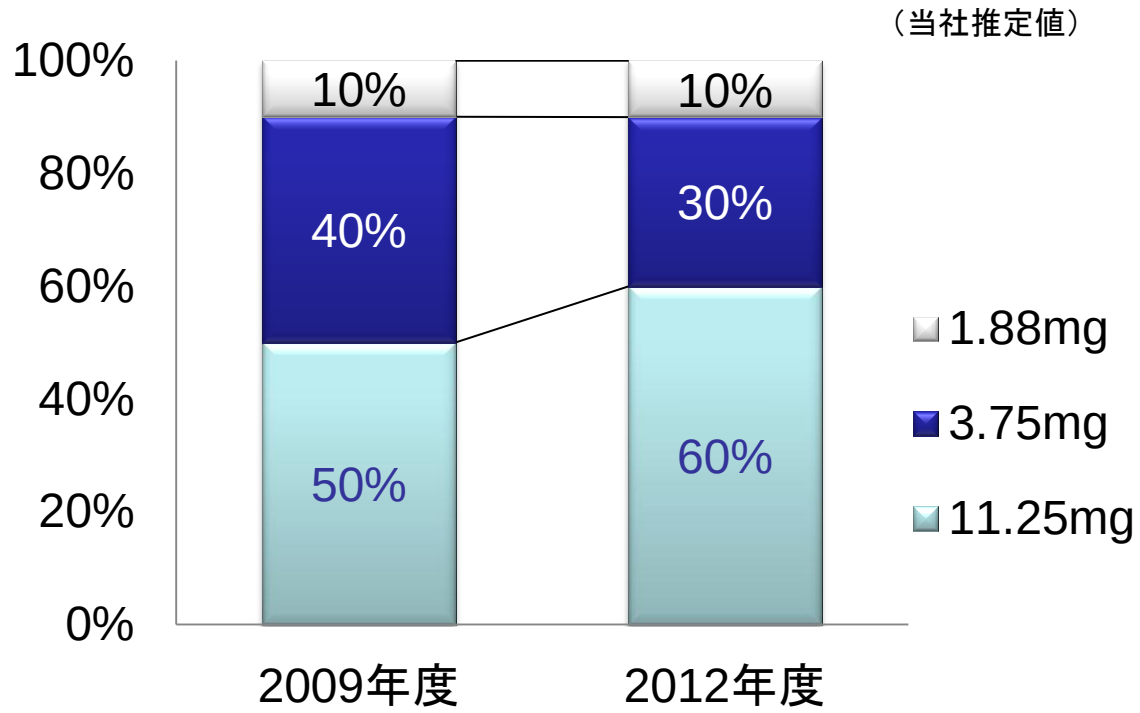
GE品　42.4%

先発品　57.6%

リュープロレリン酢酸塩注射用キット1.88mg・3.75mg「あすか」

本剤はニプロファーマ(株)の技術・ノウハウを結集して7年かけて開発した製品
万全を期して発売に臨みます （発売予定：2014年3月頃）

リュープロレリン　先発品　国内市場　製剤シェア推移



- 弊社MRはコ・プロモーション経験より製品・病態・疾患の知識とユーザーニーズを既に備えております。
- ユーザーに評価され市場に浸透していけば大型化の可能性ある製品です。
- 発売後はユーザーに対して「適正使用」の推進を心がけ慎重に販売してまいります。

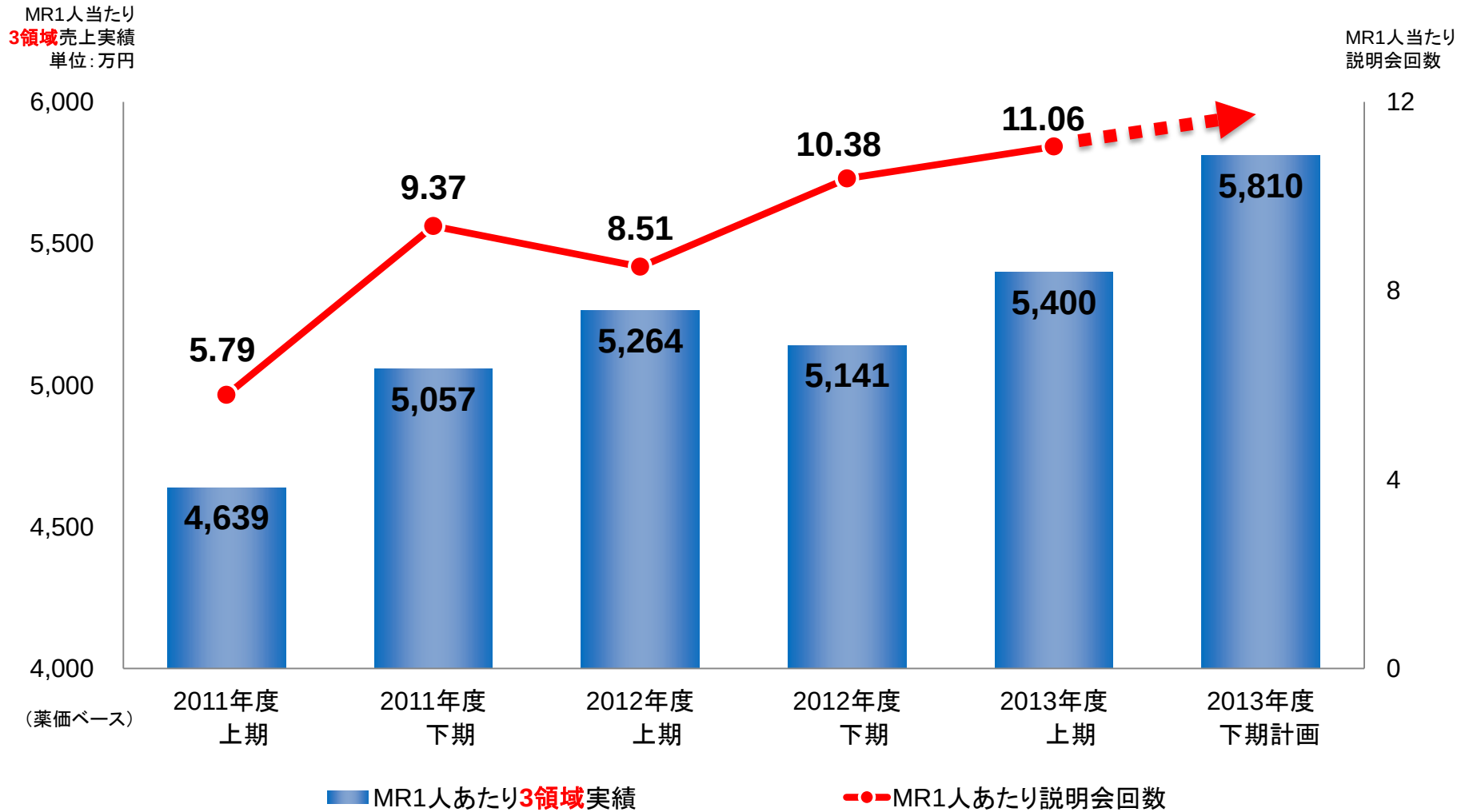
2013年度 下期 薬価申請品・新発売予定品

製品名	取扱部門	一般名（先発品）	薬効分類
リュープロレリン酢酸塩注射用キット 1.88mg「あすか」 リュープロレリン酢酸塩注射用キット 3.75mg「あすか」	医薬営業本部	リュープロレリン酢酸塩（リュープリン®）	その他のホルモン剤
テノックス®配合カプセルT20 テノックス®配合カプセルT25	医薬営業本部	テガフール ギメラシル オテラシルカリウム（TS-1）	代謝拮抗剤
リルゾール錠50mg「AA」	医薬営業本部 ジェネリック事業本部	リルゾール（リルテック®）	筋萎縮性側索硬化症用剤

次年度以降の発売予定　　2014年：7成分15規格　　2015年：10成分20規格

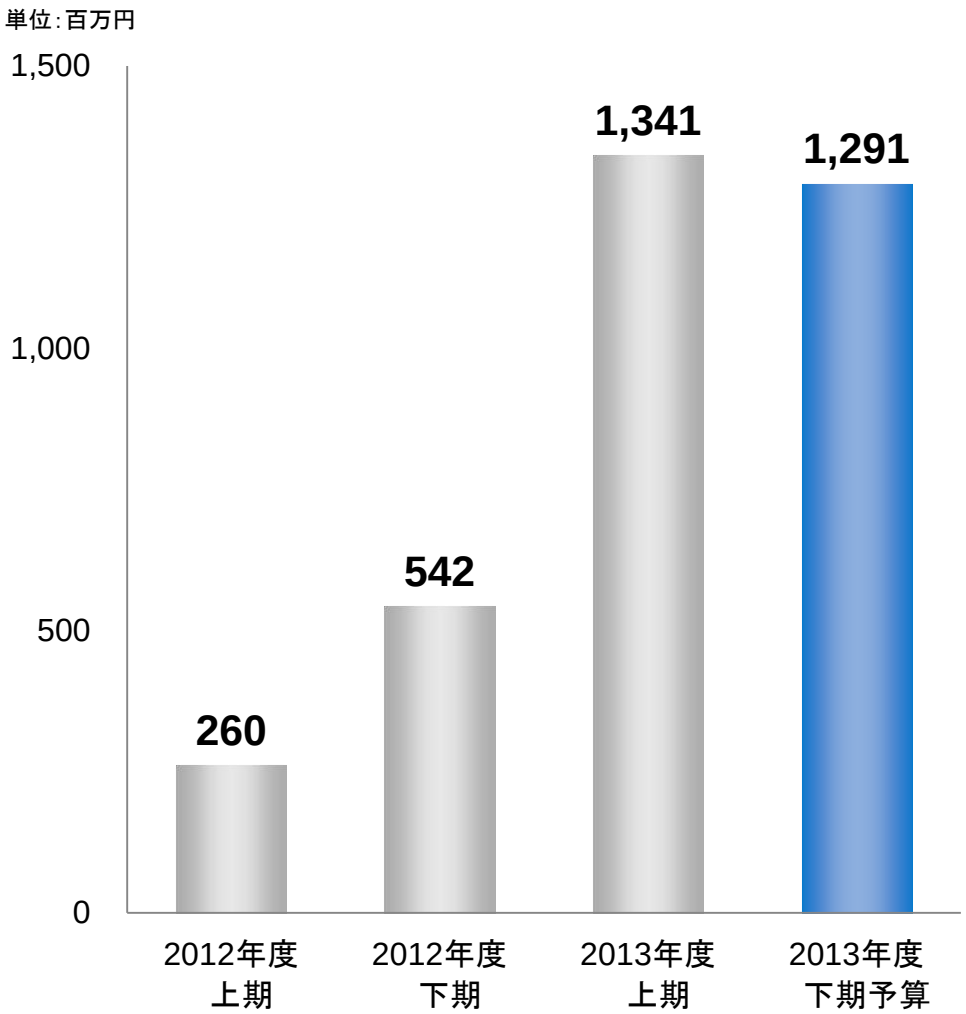
MR活動：内科・泌尿器科・産婦人科における活動の集中化

MR1人当たりの 3領域 売上実績と説明会実施状況



工場原価率低減に向けた取り組み

設備投資





内製化

- 6品目（12剤型）内製化を予定

新規設備投資

- GE用包装設備一式
- コーティング機新設ほか



2014年3月期　第2四半期
連結決算概要

あすか製薬株式会社
取締役　丸尾　篤嗣

損益計算書(連結)

単位:百万円	2013年3月期 第2四半期	2014年3月期 第2四半期	増減額	増減率
売上高	20,138	20,026	△112	△0.6%
売上原価	11,326	11,265	△61	△0.5%
売上総利益	8,809	8,759	△50	△0.6%
販売費及び 一般管理費	8,171	8,048	△122	△1.5%
営業利益	637	710	72	11.4%
経常利益	772	841	69	8.9%
特別損益	359	―	△359	―
四半期純利益	740	522	△218	△29.5%

事業別売上高（連結）

単位：百万円

	2013年3月期 第2四半期	2014年3月期 第2四半期	構成比	増減額	増減率
医療用医薬品	18,187	18,138	90.6%	△49	△0.3%
動物用医薬品	1,823	1,774	8.8%	△49	△2.7%
その他	127	112	0.6%	△14	△11.1%
合計	20,138	20,026	100.0%	△112	△0.6%

要因

- 医療用医薬品：　長期収載品の「アルタット」「プロスタール」の売上が減少する中で、高脂血症治療剤「リピディル」・緊急避妊剤「ノルレボ」・ジェネリック医薬品の前立腺癌治療剤「ビカルタミド」・高血圧症治療剤「アムロジピン」等が伸張しました。
- 動物用医薬品：　繁殖用薬とアミノ酸等機能性飼料の組み合わせによる相乗効果の発揮に努めましたが売上減となりました。

主要製品売上高

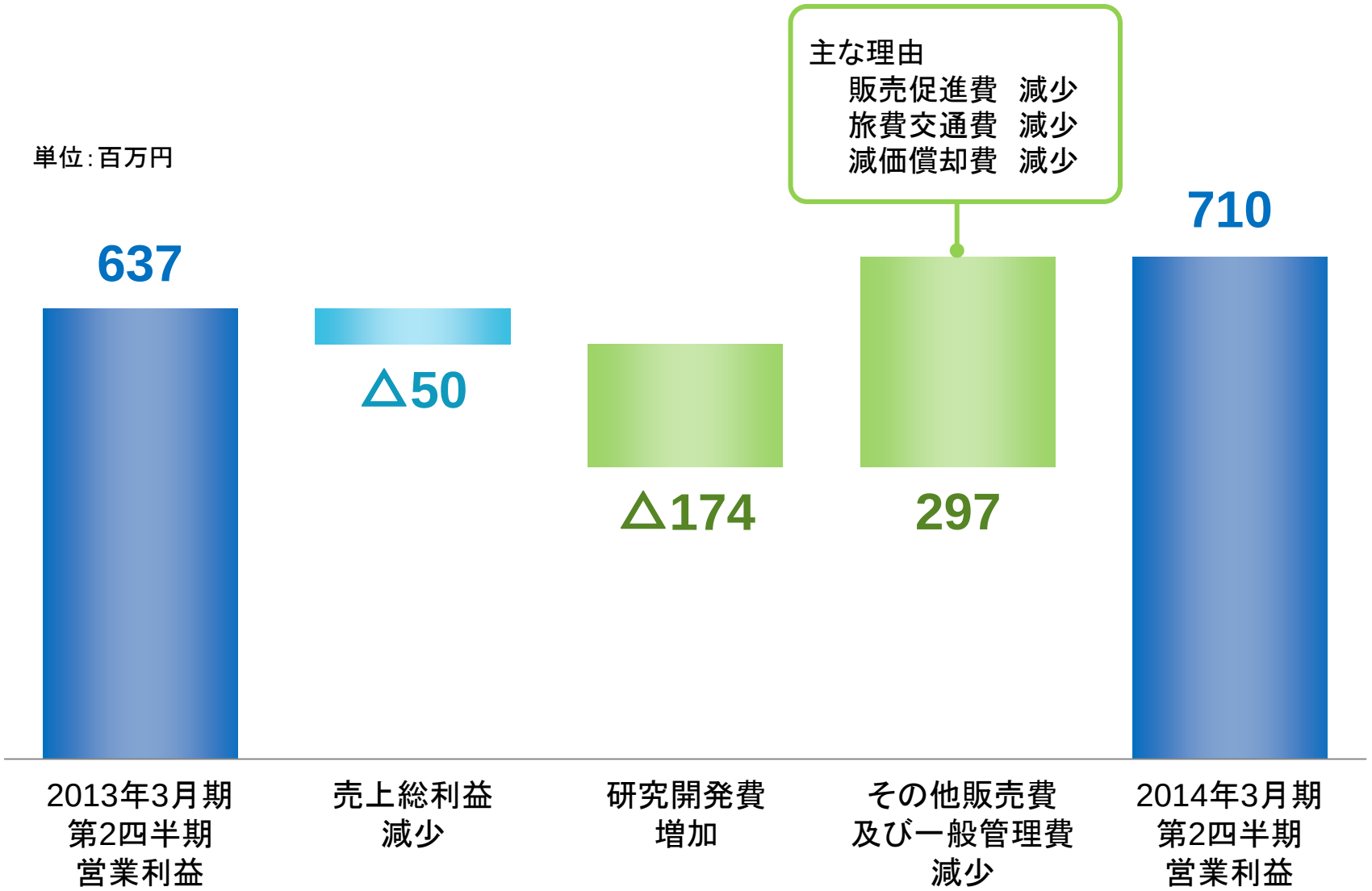
単位：百万円

領域	製品	2013年3月期 第2四半期	2014年3月期 第2四半期		2014年3月期	
		実績	実績	前同比(%)	計画	前年比(%)
内科	セルタッチ	2,893	2,584	89.3	4,259	87.7
	チラーヂン	2,397	2,343	97.7	4,968	108.2
	リピディル	1,856	2,120	114.2	4,509	109.4
	アルタット	848	641	75.6	1,294	79.6
	※ アムロジピン「あすか」	881	936	106.2	1,909	103.6
	※ ラベプラゾール	318	378	118.8	1,009	148.3
計		9,196	9,004	97.9	17,950	101.3
産婦人科	アンジュ	603	553	91.7	1,110	89.9
	ノルレボ	231	316	136.5	671	125.4
	メノエイド	226	247	109.4	490	112.4
	※ ルテオニン	321	340	106.0	658	107.7
	※ ゴナピュール	162	143	88.4	277	95.1
計		1,545	1,601	103.6	3,209	103.3
泌尿器科	プロスタール	1,033	836	81.0	1,755	88.2
	※ ビカルタミド	936	1,056	112.7	2,185	105.0
	※ リストリーム	290	327	113.0	644	106.4
計		2,260	2,220	98.2	4,586	98.1
その他重点3領域GE群		2,053	1,904	92.8	4,806	115.0
小計		15,055	14,731	97.8	30,552	102.9
(小計／医療用医薬品)%		**82.8%**	**81.2%**		**81.7%**	

※ ジェネリック医薬品

営業利益増減分析（対前同）

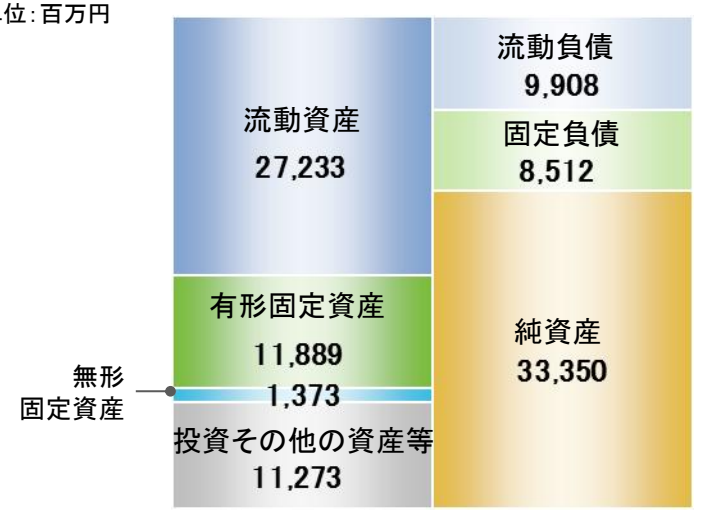
単位：百万円



貸借対照表(連結)

2013年3月期末

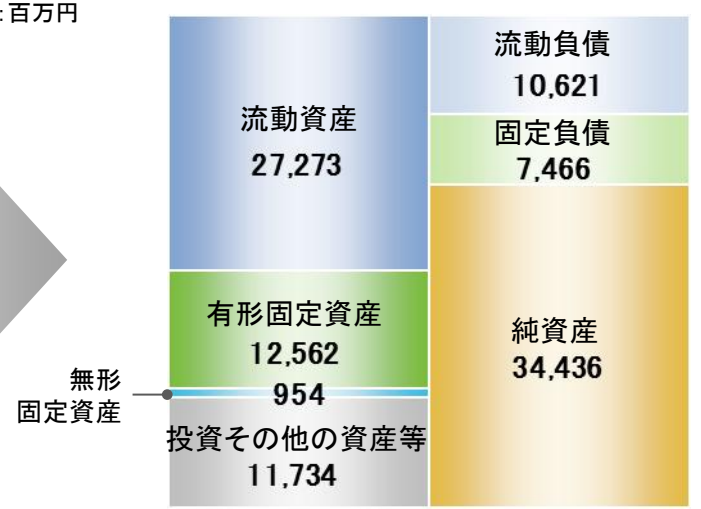
単位:百万円



総資産 51,770百万円

2014年3月期 第2四半期末

単位:百万円



総資産 52,525百万円

	総資産	流動資産	有形固定資産	無形固定資産	投資その他の資産等	流動負債	固定負債	純資産
増減額	754	39	673	△419	461	713	△1,045	1,086

分析

- 流動資産: 商品及び製品 440、原材料及び貯蔵品 416、現金及び預金 186、有価証券 157、受取手形及び売掛金 △1,220
- 有形固定資産: 新規取得 1,341、減価償却費 △661
- 無形固定資産: 新規取得 40、減価償却費 △459
- 投資その他の資産等: 投資有価証券 1,106、長期性預金 △300、繰延税金資産 △427
- 流動負債: 短期借入金 833、支払手形及び買掛金 726、未払法人税等 △671
- 固定負債: 長期借入金 △1,029
- 純資産: 利益剰余金 328、その他有価証券評価差額金 719

2014年3月期予想（連結）

単位：百万円	2013年3月期 実績	2014年3月期 予想	増減額	増減率
売上高	40,963	41,900	937	2.3%
営業利益	1,061	700	△361	△34.1%
経常利益	1,336	1,050	△286	△21.5%
当期純利益	1,114	600	△514	△46.1%

- この資料に含まれる将来の予測に関する事項は、発表日現在において入手可能な情報による当社の仮定および判断に基づくものであり、既知または未知のリスクおよび不確実性が内在しております
- したがって、実際の業績、開発見通し等は今後さまざまな要因によって大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき願います
- 医薬品（開発中のものを含む）に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません

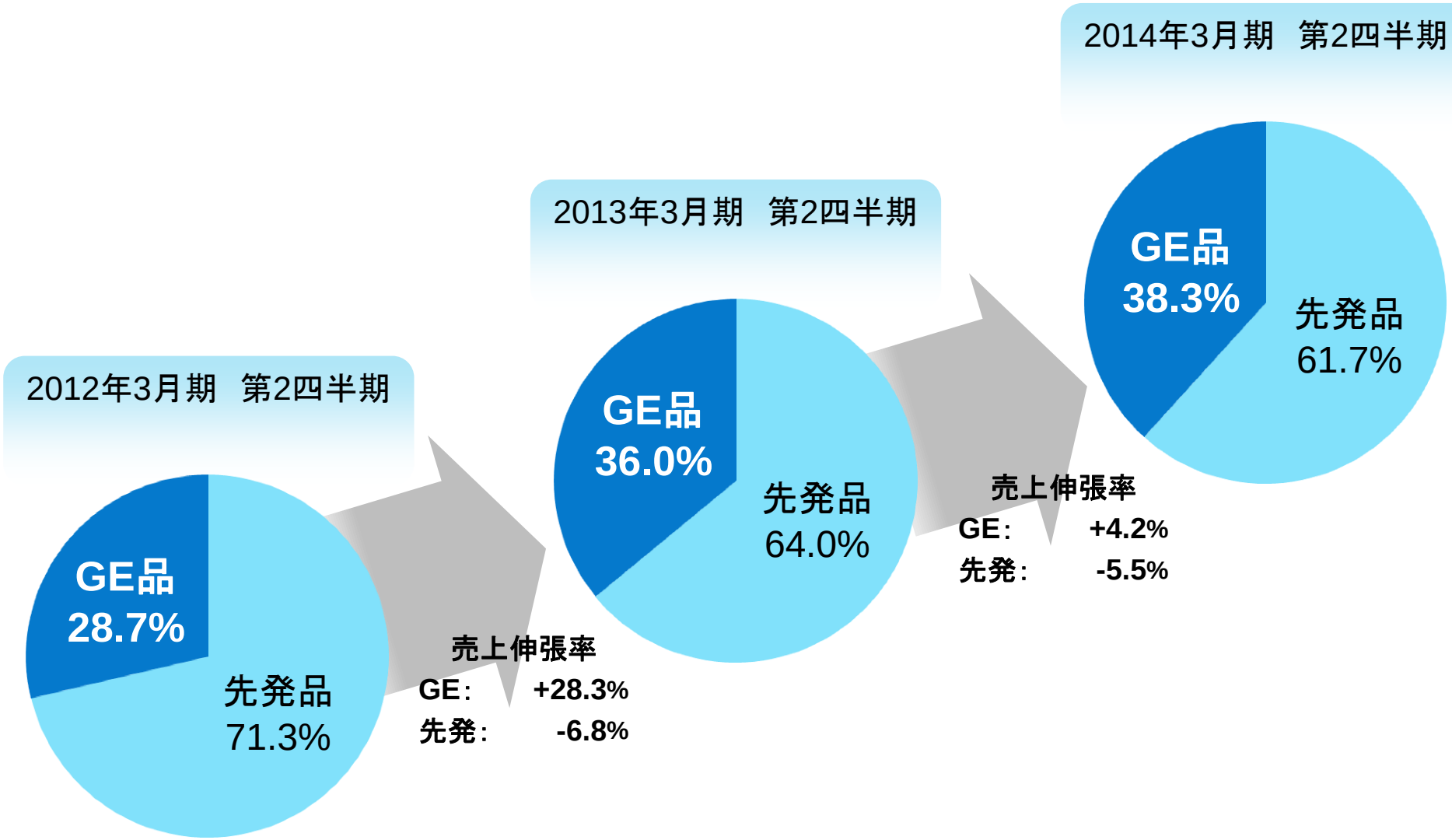
お問い合わせ先

経営企画部

Tel　：03－5484－8366

e-mail：kouhou@aska-pharma.co.jp

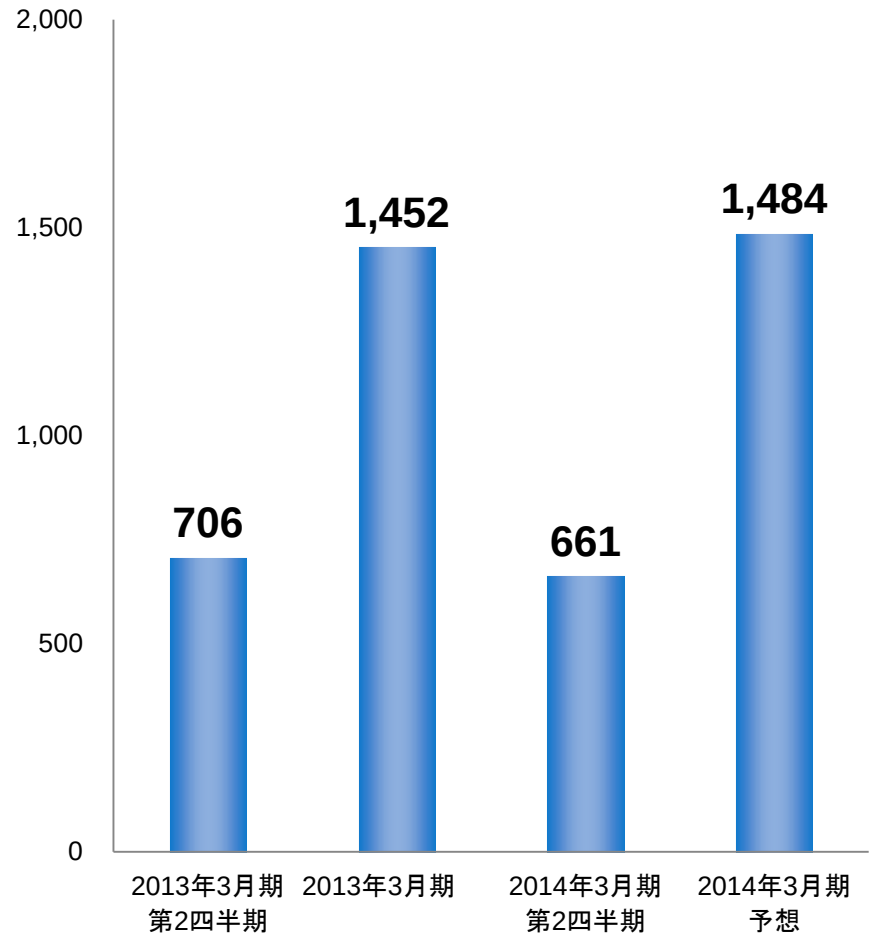
ご参考：医療用医薬品の売上構成比・伸張率



ご参考：その他の概況

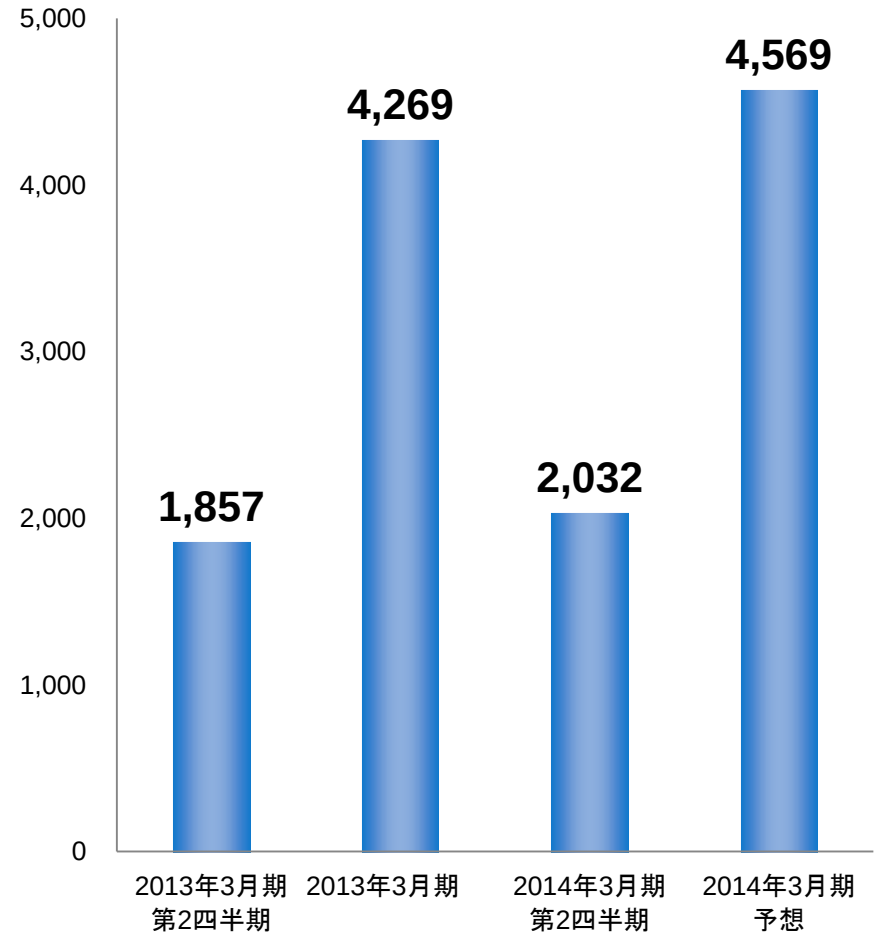
減価償却費

単位：百万円



研究開発費

単位：百万円



トピックス　：　単元株式数の変更

当社は、2013年11月5日開催の取締役会において、会社法第195条第1項の規定に基づき、単元株式数の変更を決議しました。

変更の理由

- 投資しやすい環境の整備
- 株式の流動性の向上
- 投資家層の拡大

変更の内容

- 単元株式数を1,000株から100株へ変更

変更効力発生日

- 2014年1月6日（月）

大株主の状況　（2013年9月末）

株主氏名	所有株数（万株）	構成比率（%）
武田薬品工業（株）	220	7.21
自社（自己株式）	210	6.88
（株）三菱東京UFJ銀行	110	3.60
日本トラスティ・サービス信託銀行（株）（信託口）	105	3.42
山口隆	91	2.99
日本マスタートラスト信託銀行（株）（信託口）	74	2.43
あすか製薬従業員持株会	70	2.27
（株）ヤマグチ	56	1.81
日本生命保険相互会社	55	1.80
ヘルスケア・キャピタル	54	1.77